

[066] 語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10202>

出版情報：語文研究. 66/67, 1989-06-10. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：



奥村三雄教授 近影

奥村三雄教授略歴

- 大正十四年七月二日 京都府に生まる
- 昭和二十四年三月 京都大学文学部国語国文学科卒業
- 昭和二十五年度 京都学芸大学助手
- 昭和二十九年三月 京都大学大学院修業
- 昭和三十一年四月 岐阜大学教育学部講師
- 昭和三十三年四月 同助教授
- 昭和四十四年十月 九州大学文学部助教授
- 昭和四十七年五月 国語学会評議員
- 昭和五十三年三月 文学博士『平曲譜本の研究』(九州大学)
- 昭和五十三年七月 九州大学文学部教授
- 昭和五十七年五月 国語学会理事
- 昭和五十七年八月 インドネシア国立パジャジャラン大学客員教授(昭和五十八年四月まで)
- 昭和五十八年五月 中華民国東呉大学客員教授(昭和五十八年八月まで)
- 昭和五十九年十月 留学生教育センター設置準備委員会委員長(昭和六十年三月まで)
- 昭和六十二年七月 評議員(昭和六十三年三月まで)
- 昭和六十二年九月 韓国嶺南大学校客員教授(昭和六十三年八月まで)
- 昭和六十二年十二月 中華民国東呉大学客員教授(昭和六十三年二月まで)
- 平成元年三月 定年退官
- 平成元年五月 九州大学名誉教授の称号を授与せらる

奥村三雄教授主要著作目録

著 書

- | | | |
|--------------------------|----------|-----------|
| 〔西濃揖斐郡の言語〕 揖斐川上流域総合調査報告書 | 岐阜県教委 | 昭和三十八年三月 |
| 〔不破郡垂井町岩手方言〕 | 国立国語研究所 | 昭和四十三年三月 |
| 〔揖斐郡徳山村方言〕 | 岐阜大学教育学部 | 昭和四十五年十二月 |
| 〔平曲正節〕（共編） | 臨川書店 | 昭和四十六年十二月 |
| 〔聚分韻略の研究〕 | 風間書房 | 昭和四十八年六月 |
| 〔平家正節〕（共編） | 大学堂書店 | 昭和四十九年七月 |
| 〔岐阜県方言の研究〕 | 大衆書房 | 昭和五十一年一月 |
| 〔平家正節の研究〕（共編） | 大学堂書店 | 昭和五十五年一月 |
| 〔平曲譜本の研究〕 | 桜楓社 | 昭和五十六年五月 |
| 〔平家正節語彙索引〕 | 大学堂書店 | 昭和五十八年二月 |
| 〔波多野流平曲譜本の研究〕 | 勉誠社 | 昭和六十一年六月 |
| 〔増補版岐阜県方言の研究〕 | 大衆書房 | 昭和六十三年二月 |
| 〔九州方言の史的研究〕（編著） | 桜楓社 | 平成元年三月 |

論 文

- 喉内韻尾の国語化
 韻尾の国語化について
 字音の連濁について
 音節とアクセント―吳音声調の国語化―
 対馬方言の性格―語言史研究の一方法―
 単位語の認定―形態論の立場―
 対馬方言の性格―豆酸と厳原―
 丹波方言の概観―方言区画の問題―
 撥音の性格―表記と音価の問題―
 東西アクセント分離の時期―外来語のアクセント―
 日本漢字音の体系
 辞の形態論的性格
 近世音韻史料としての黄森唐音
 吳音の声調体系
 方言の区画
 音韻とアクセント―アクセント研究の意義―
 俱舍論音義和訓のアクセント
 漢語のアクセント
- 国語国文19卷3
 説林3卷1
 国語国文21卷5
 国語国文22卷11
 国語学17
 国語国文23卷8
 古今書院『対馬の自然と文化』
 近畿方言叢書1
 国語学23
 国語国文24卷12
 訓点語と訓点資料6
 国語国文25卷9
 岐阜大学学芸学部紀要人文5
 訓点語と訓点資料8
 国語国文27卷3
 国語国文27卷9
 岐阜大学教育学部紀要人文8
 国語国文30卷1
- 昭和二十五年十二月
 昭和二十六年一月
 昭和二十七年五月
 昭和二十八年十一月
 昭和二十九年七月
 昭和二十九年八月
 昭和二十九年九月
 昭和三十年四月
 昭和三十年十一月
 昭和三十年十二月
 昭和三十一年四月
 昭和三十一年九月
 昭和三十一年九月
 昭和三十一年三月
 昭和三十一年三月
 昭和三十三年三月
 昭和三十三年九月
 昭和三十四年十二月
 昭和三十六年一月

アクセントとアクセント研究の意義

京都・滋賀・福井の方言

呉音声調の性格

いわゆる漢呉音の声調について

言語における分析的単位

近畿諸方言のアクセント・京都府方言

西濃揖斐郡北部のアクセント

声明資料「聖宝印理趣経」について

漢語のアクセント―アクセント論から語彙論へ―

漢語アクセントの性格

生ズルと称スル―連濁の要因について

近畿方言の区画

上方洒落本における文末敬語法

方言と共通語の文法的対応

近代京阪語考Ⅰ―順接表現の助詞について

敬語辞系譜考―近代京阪語研究の一環として―

敬語助動詞の系譜―近代京阪語に関する一考察

近代京阪語の使役辞

国語国文学 1

『方言学講座』 3

訓点語と訓点資料 18

国語国文 31 卷 1

ことばと文学 1

『近畿方言の総合的研究』

岐阜大学教育学部紀要人文 11

国語国文 32 卷 2

国語学 55

国語国文 33 卷 2

国語国文学 3

東京堂『日本の方言区画』

岐阜大学教育学部紀要人文 13

『口語文法講座』 5

岐阜大学教育学部紀要 14

国語国文 35 卷 5

三重県方言 21

国語国文 36 卷 1

昭和三十六年 一月

昭和三十六年 四月

昭和三十六年 十月

昭和三十七年 一月

昭和三十七年 二月

昭和三十七年 三月

昭和三十七年 十二月

昭和三十八年 二月

昭和三十八年 十二月

昭和三十九年 二月

昭和三十九年 七月

昭和三十九年 十月

昭和四十年 二月

昭和四十年 三月

昭和四十一年 三月

昭和四十一年 五月

昭和四十一年 六月

昭和四十二年 一月

漢語アクセント小考―三巻本色葉字類抄を中心として―

訓点語と訓点資料 32

昭和四十二年 二月

近代京阪語考Ⅱ―二段活用の残存―

岐阜大学教育学部紀要人文 15

昭和四十二年 三月

所謂二段活用の一段化について

近代語研究 2

昭和四十三年 一月

―方言的事実から史的考察へ―

国語国文 37 卷 1

昭和四十三年 七月

サ行イ音便の消長

言語生活 22

昭和四十三年 七月

関西弁の地理的範囲

解釈と鑑賞 34 卷 8

昭和四十四年 七月

国語史と方言研究

月刊文法 2 卷 2

昭和四十四年 十二月

単位語の認定をめぐって―アクセントから文法へ―

国語と国文学 47 卷 10

昭和四十五年 十月

平曲譜本に反映したアクセント

明治書院『講座正しい日本語』 2

昭和四十六年 一月

―京大本平曲正節を中心として―

語文研究 31・32

昭和四十六年 十月

聚分韻略の版本について

近代語研究 3

昭和四十七年 一月

天和三年黄檗版観音経―近代初期の表記音韻史料として―

文学研究 69

昭和四十七年 三月

アクセント史料として見た平曲譜本

大修館書店『講座国語史』 2

昭和四十七年 十月

古代の音韻

九州文化史研究所紀要 18

昭和四十八年 三月

対馬方言の性格

三弥井書店『方言研究叢書』 3

昭和四十九年 九月

諸方言アクセント分派の時期―漢語アクセントの研究―

筑摩書房『方言と標準語』

昭和四十九年 十二月

近畿の方言

(シンポジウム) 国語学 99

昭和四十九年 十二月

国語史研究資料として見た語り物の類

有精堂『国語学概説』

昭和五十年 二月

音韻

平曲譜本に反映した動詞のアクセント

近畿北陸の方言

平曲譜本と付属語のアクセント

方言区画

国語音韻の史的变化

平曲譜本と活用語のアクセント

国語史の資料と方法―方言国語史と文献国語史

平曲譜本と活用語のアクセント―助動詞を中心に―

国語学資料として見た平曲譜本

―譜記とアクセントの相関性を中心に―

音韻の変遷(2)

九州諸方言アクセントの系譜

平曲譜本に反映した自立語のアクセント

京都の親族語彙

「京都方言・大阪方言」

平曲の詞章と旋律

平曲の曲節と詞章の性格

平家物語の敬語表現―敬語・曲節・人物批判

文学研究 72

汐文社『現代日本語の音声と方言』

語文研究 39・40

学生社『シンポジウム日本語5日本の方言』

汐文社『日本語の歴史』

表現社『国語史論集』

国語学 104

表現社『国語史論集』

国語国文 46巻 4

岩波書店『講座日本語』 5

有精堂『新編国語史概説』

九州文化史研究所紀要 23

桜楓社『語文論叢』

三省堂『日本方言の語彙』

明治書院『全国方言基礎語彙の研究序説』

文学研究 76

桜楓社『国語学論集』

文学研究 78

昭和五十年三月

昭和五十年五月

昭和五十年六月

昭和五十年八月

昭和五十年十一月

昭和五十一年三月

昭和五十一年五月

昭和五十一年四月

昭和五十一年八月

昭和五十三年二月

昭和五十三年三月

昭和五十三年十月

昭和五十三年十一月

昭和五十四年二月

昭和五十四年三月

昭和五十五年十一月

昭和五十六年三月

国語アクセント史の一問題

—出雲方言のアクセントを中心に—

波多野流平曲の古譜本について

方言と古語

平曲の音楽性とは

サ行の発音はどの様に推移したか

平曲の小秘事—山口県図書館本を中心に—

方言の動詞—活用体系の面を中心に

連濁

平曲の旋律と詞章内容—強声を中心に—

方言区画論

国語史と方言

方言国語史的研究叙説

平曲の旋律と詞章

波多野前田両流平曲の消長

アクセントの変化—アクセント型式と所属語彙の問題

方言国語史と地域的隣接性の問題

—方言区分論・方言系譜論—

日本語の音韻

三省堂『方言学論叢』Ⅱ

文学研究 79

明治書院『講座日本語の語彙』 8

九州大学国文研究室『文学論叢』

国文学 27 卷 16 号

文学研究 80

明治書院『研究資料日本語の文法』 2

日本語学 3 卷 5 号

三省堂『金田一春彦博士古稀記念論文集 3 文学・芸能編』

国書刊行会『講座方言学』 2

言語生活 399

文学研究 82

愛媛国文研究 35

文学研究 83

明治書院『論集日本言研究 (2)』

文学研究 84

大修館『日本語百科大事典』—「音韻・音声」の章編集

昭和五十六年 六月

昭和五十七年 三月

昭和五十七年 四月

昭和五十七年 六月

昭和五十七年 十二月

昭和五十八年 二月

昭和五十九年 四月

昭和五十九年 五月

昭和五十九年 七月

昭和五十九年 十月

昭和六十年 三月

昭和六十年 三月

昭和六十年 十二月

昭和六十一年 二月

昭和六十一年 十一月

昭和六十二年 二月

昭和六十三年 五月

(以上、主要なるもののみ抄出)